Chromatic Sky

第 3 期 OB　森岡 耕作

皆様，ご無沙汰いたしております。私事，東京経済大学に奉職して 5 年が過ぎ，6 年目を迎えた 2016 年度より大学のサバティカル制度（研究休暇制度）を利用させてもらい，現在，カリフォルニア州にあるサンノゼ州立大学にお世話になっております。出身地である奄美大島を日本本土の「海外」と見なさなければ, カリフォルニアの地で初めての海外生活を送っております。当初は慣れないことも多かったのですが，現在は週 5 日で大学に通いながら，共同研究を含めて自身の研究に没頭できております。

同期の横山さんとともに @ スタンフォード大学（2016 年）
（著者は左側）

また，ありがたいことに，多くの方々とこちらでお会いすることもあります。昨年 9 月に，短い夏休み中に到底「休み」とは思えないような旅程（東京→サンフランシスコ→ロサンゼルス→東京→マレーシア→東京）を組んでいた同期の横山君が訪ねてきてくれました。併せて，同期の恩田さんがロサンゼルスに勤めていることもあって，アーバインの地でちょっとした同期会を催すこともできました。カリフォルニアでの短期滞在にもかかわらず，大量に摂取し，大胆に動く彼を見て，底知れぬパワーに驚愕しました。

ワイン通を装う第 2 期奈良崎さん

その後，11 月には，米国出張中であった第 2 期生の奈良崎さんに州都サクラメントでお会いできました。昨年までベトナムにて海外勤務をなさっていた奈良崎さんから，海外での生活等について色々とご教示いただいたような気がしますが，帰り際の車内にて，家内に「××××（コンプラ)」と相談していた昔と相変わらない姿を見て湧いてきた郷愁と諦念から，そのアドバイスを忘れてしまいました。関連して（！？），今年の 1 月には第 2 期生の内田さんがサンフランシスコにいらっしゃるため，お会いできる予定です。

さて，このような非日常における非日常ばかりがあるわけではなく，冒頭申し上げたとおり，普段は週 5 日登校して研究活動をするという定型生活を送っております。その中で，すっかりと溶け込んだ現地の人でも，右も左も分からぬ旅行者でもない中間の立場にあって抱く雑感を多少述べさせてください。

州都サクラメントにて，奈良崎さんと再会した際の写真
（著者は右側）

この地の生活で感じる最も印象的なことは，人々の楽天的で広量な性格です。言葉では表現しづらいのですが，ここに暮らす人は皆，心にゆとりがあるように思われます。サンノゼ市，不動産価格（平均 $1,000,000 超）・アパート賃貸価格（平均$2,100 超/月）において全米屈指の都市であり，とりわけ後者については，かのニューヨークやボストンを凌ぐほどです。当然，それに比例して，物価も多少割高になっていると思われます。それにもかかわらず，ここに暮らす人々は，狭量でせせこましくならず，むしろ寛容で生活を楽しんでいるように思われます。少ない経験ながらも，他の地域と種々の要因について比較していくと，どうも天候がそうさせているのではないかと推察しています。雲ひとつない快晴が続く夏は，干ばつへの心配を忘れさせるほどに人々をポジティブにさせてくれるのかもしれません。

そして，重要なことに，この地に住むそのような寛容さは，「シリコンバレー」と呼ばれる地域の重要な特性を生んでいるように思われます。つまり，1 人ひとりの寛容さは，特定の固定概念や枠組みに基づいた排他的な人間関係に陥ることなく，全米ならず，世界中から多くの人が集まってくることを許容し，結果として多様性を可能にしています。例えば，私の所属しているサンノゼ州立大学では，アジア系（約 30%），メキシコ系（約 25%），白人（約 20%），黒人（約 3%）と続く人種構成で，いわゆる「アメリカの大学」っぽさはさほどありません。人種構成はその一側面でしかありませんが，ともあれ，多様性はこの地を形容するもう 1 つの重要な特徴のように思います。

2 つの季節のサンノゼ州立大学

日本は，ほとんど単一人種・民族で構成されている国です。そして，それゆえの良さが十分に溢れているように感じます。しかし，反面，排他的になりがちなデメリットも持ち合わせているでしょう。月並みなことですが，その同質性の両側面をうまく捉えるためには，対極にある多様性の側からそれを眺める必要があるのかもしれません。これまで生活してきた日本で見る「日本晴れ」は青一色に見えましたが，今，この地で見る「カリフォルニア晴れ」は，その中に多様な色彩を見いだすことができるような魅力的な空です。とんぼのめがねとは逆に，空が人間の「いろ」を反映しているのかもしれません。

冗長な駄文でしたが，端的に述べれば，11 年前に同期の田中君と在外研究中であった小野先生を訪ねた際に連れて行っていただいたスタンフォード大学で，小野先生のおっしゃった「君たちも留学してみたらいいんじゃない」という言葉の真意がようやく少し理解できるようになり，後悔しつつも，だからこそ貴重な経験を大事にしたいと考えている，ということです。「I love you」が「月が綺麗ですね」と訳されるのであれば，「Why don’t you go abroad?」は「青空の色を確かめてみたら？」となるのでしょうか。

同期の田中さんとともに@スタンフォード大学（2005 年）
（著者は左側）